

# 知っていますか？ AED



心停止。意識なし。心臓や呼吸が止まってしまった人の命を救う。早い119番通報と迅速な応急手当。救急現場に居合わせたあなたは、救急隊に命を引き継ぐ救命リレーの第一走者です。

## ■応急手当の重要性

私たちは、いつ・どこで、突然のケガや病気におそわれるかわかりません。そんなときに、その場でできる手当のことを応急手当といえます。けがや病気の中でも、最も緊急を要するのが心臓や呼吸が止まってしまった場合です。心筋梗塞や脳卒中などは、何の前触れもなく起こることも多く、時には心臓や呼吸が突然止まってしまつこともあります。

このような、心臓や呼吸が止まった人が助かる可能性は、時間を追うごとに急激に低下するため、まさに1分1秒を争います。さつま町では119番通報をしてから救急車が到着するまでに、平均約8分かかります。この8分の間、そばに居合わせた人が手をこまねいては、助かる命も助けられないことになってしまいます。このようなときに、その人の命を救うために、そばにいる人が助けられること、それがAEDによる

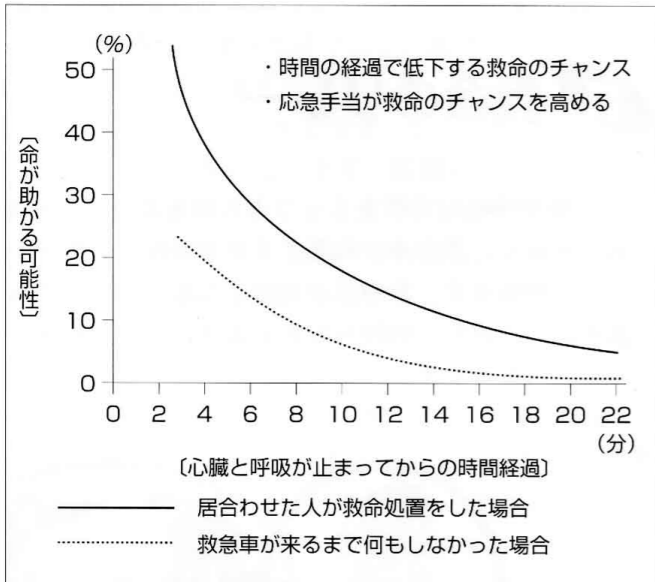
電気ショックや心肺蘇生法などの応急手当なのです。

## ■AEDと心肺蘇生法

突然の心停止は、心臓が細かく震える心室細動といわれる不整脈によって生じることが多く、この場合、1分1秒でも早く胸骨圧迫（心臓マッサージ）などの心肺蘇生法を行うことがとても重要です。これに加え

てAEDを使用することで、助かる可能性が高くなり、AEDの使用が1分遅れるごとに、7〜10%の割合で生存率が落ちていきます。

また、心臓が停止した人でもAEDを用いた除細動が適さない心臓のリズムもあり、その場合にできる応急手当としても、この心肺蘇生法を救急車が到着するまで続けることがとても重要です。AEDはすべての心臓が止まった人に使える機器ではないことも知っておいてください。



グラフは、財団法人救急振興財団  
〔改訂3版応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに〕より引用

心臓が止まった人に使える機器ではないことも知っておいてください。このように、強く、早い胸骨圧迫を行う正しい心肺蘇生法は、AEDの効果さをさらに高めるためにも重要なことで、いつでも勇気を持って実施できるようにしておく必要があります。

## AEDとは

AED（自動体外式除細動器）とは、人が突然の不整脈などで倒れ、心臓が細かく震えるだけで血液を全身に送り出せなくなった状態（心室細動）といえます。のとき、一般の人でも簡単・安全

に「心臓に電気ショック（除細動といえます。）」を与え、心臓の機能を正常に戻すことが可能となる医療機器のことです。AEDは、コンピュータによって倒れた人の心臓のリズムを自動的に調べて、除細動が必要かどうかを判断し、その後どういう操作をしたらよいのかを「音声メッセージ」で具体的に指示してくれます。また、正常な人の心臓のリズムでは除細動の必要なしと判断するため、安全性も十分確保されていますので、一般人でも講習を受ければ簡単に確実に操作することができます。AEDにはいろいろなタイプの機種がありますが、基本的な機能は共通しており、その機種ごとの操作方法も音声メッセージやボタンの点滅などで指示してくれます。